

自閉症総合援助センター 萌葱の郷  
豊後大野子育て総合支援センター

# ASSIST



～芽吹く未来へ～



## ◆法人内研修（日々、自己研鑽）

当法人は、研修委員会等幾つかの委員会を設けており、職員が日々研鑽し、スキルを高め個々の質の向上を図るために施設内外で数多くの研修を行っています。今回の表紙の写真は虐待防止委員会主催の「アンガーマネジメント」の研修の様子です。怒りのコントロールの仕方などをグループディスカッションしながら学び合いました。

2017.4.1 発行  
VOL.12



# 多様性を認め合う共生社会を

理事長 五十嵐 康郎  
(全日本自閉症支援者協会副会長)



シリアなどの中東の国々での紛争が長期化し、多数の難民が生み出されるとともに、テロが拡散し、難民の多くがドイツやフランスをはじめとするヨーロッパ諸国に押し寄せたことから、難民や他民族を排斥する思想が勢力を拡大しつつあります。

期を同じくして、平成28年6月23日に行われたイギリスのEU離脱の是非を問う国民投票では離脱派が勝利し、11月8日に行われたアメリカ大統領選挙では、ドナルド・トランプ氏が大方の予想を裏切って当選し、同氏の「アメリカ・ファースト」に代表されるように、世界の国々が自国の利益を優先する予測不能の時代に入りました。

国内では、4月14日午後9時26分に最大震度7の大地震が熊本県において発生しました。さらに16日午前1時25分の本震では益城町と西原村で震度7を観測し、益城町や西原村、南阿蘇村では多くの建物が倒壊し、熊本城も瓦が落ち、石垣が崩壊する等の大きな被害をもたらしました。

震源地に近い全日本自閉症支援者協会加盟施設の三気の里ではライフラインが遮断され、トイレや水道管の破損、壁、階段、アスファルト舗装等に多数の亀裂が入り、グラウンドで夜を明かすなど大変厳しい状況にありました。特にグループホームは損壊が激しく、現在も本体施設での避難生活を余儀なくされています。そうした中であって、職員の迅速かつ献身的な働きによって死傷者が出なかったことは不幸中の幸いでした。

全日本自閉症支援者協会加盟施設の多くが、義援金や救援物資を届けましたが、当法人も本震から2日後の18日に職員2名を派遣し救援物資を届けました。

そうした状況にもかかわらず、4月25日には、通所サービスを再開、6月1日には、短期入所利用の受入れを開始し、自宅が全壊した方を優先的に受け入れたとのことでした。

今回の地震で、鉄筋コンクリート造の本体施設は大きな損傷はありませんでしたが、グループホームは建て替えが必要な状態です。三気の里が自法人利用者のみならず、地域支援の拠点として機能したことは特筆すべきことだと思います。

7月26日未明には神奈川県の障害者支援施設において、利用者大量殺傷事件が発生し、戦後に発生した殺人事件としては、最大の犠牲者が出ました。利用者に寄り添い人権を守るべき元職員による凶行には言葉ありません。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、紛争、テロ、孤立主義、自然災害、多様性を認めない不寛容な思想など、多くの困難が立ちはだかっていますが、当法人は、自然災害に備えるとともに、障がいのある方や女性、子供など全ての人が多様性を認め合い共に育ち豊かに生きられる共生社会の実現を目指します。

A：同じ部署でよく話しているのですが、今更そんなに話すこともないと思いますが（笑）今日はよろしくお願ひします！

齊：よろしくお願ひします（笑）

A：早速ですが、萌葱の郷に来た経緯を教えてください。

齊：子育て中にホームヘルパーの資格を取得しまして。それで、また保育園に戻って働き始めて、でも保育園に勤めるうちに体力的に厳しいかなって思っていたところに、ヘルパーの資格も活かせればと思って、萌葱の郷の面接を受けに行きました。

A：どうして萌葱の郷だったんですか？

齊：その時にハローワークに行ったら萌葱の郷の求人があった。私が元々障がい児の通所施設で働いていたというのもあったので、障がいってというのが、身近ではないんだけど、なんとなく経験はあるかなってことで。

A：じゃあ、萌葱の郷に来たのは偶然だったんですね。

齊：そうですね。その時の萌葱の郷の求人の内容が保育士とかもあって。保育園に勤めてたし、その内容がなんとなく私に合ってると思って。これならどこかでこれまでの経験とか資格とかも活かせるかなと。

A：そうだったんですね。そもそも、保育士になろうと思ったきっかけは何だったんですか？

齊：小さい頃から赤ちゃんが好きで、身近にいとことか赤ちゃんとか年下の子がいて、保育士になるのがこどもの頃からの夢でした。夢を聞かれたらずっと保育士になるって答えて。それで短大に行って、保育士になりました。ただ単純にこどもが好きって理由で。

A：短大を出て、すぐ障がい児の通所施設に勤めたんですか？

齊：最初は保育園でした。本当は乳児院みたいな、赤ちゃんだけのところに行きたかった。でも、なかなかそんな求人もなく。それで、初めは保育園の臨時で働き始めました。

A：そこからなぜ、障がい者支援の道に？

齊：保育園は日案とか月案とか書くのがあって、それがすごく苦手で、文章力がなくて。そんな時に、うち（障がい児の通所施設）にはそんな日案とかはないよって知り合いに聞いて、丁度それで求人があったから、そんな簡単な理由で障がい者支援の道に行きました（笑）でも、入ったらとんでもなくて。ケース記録は書かないといけないうし、結局一緒でした。それで、何も分からないままなんとなく流れに流れた感じでした。

A：確かに保育園のそういった業務は大変なイメージがありますね。利用者の方と関わる上で大切にしていることは何かありますか？

齊：そうですね... 障がいのあるなしに関わらず、自分のこどもにされたらどうかな、嫌だなっていうのはなんとなく思う。自分たちもしたらいけないし、されたくもないし、まあ基本はそれかなって感じです。

A：自分にこどもがいたらなおさらイメージしますよね。初めて萌葱の郷に来た時はどうでした？

齊：なんかびっくりすることばかりでした。『何で！？』って。『ここにそのまま入る！？裸足のまま入る！？』って。そんなことも多かったし、『何で叩かれたんやろう！？』って。それと最初に入った時は『行動援護って何なんだろう？』って感じでした。そういうの全くなくなって。萌葱の郷に入って、らすかるに配属が決まって、そこで初めて行動援護の仕組みを知って。全てがびっくりすることばかりでした（笑）



話し手：齊藤 鈴代 (=齊)

聞き手：A

A：らすかるは特にマンツーマンの個別支援ですもんね。

齊：そうそう。関わりやすいっていう面もあるんだけど、なんかあった時に誰も手助けはしてくれない。マンツーマンの個別支援だから、刺激も少なく、だからこそ関わりやすいっていう面もある。どこで折り合いをつけるか。あと、私たち支援者と利用者さんとの間には、当然だけ考え方とか捉え方に違いがあって。こっちは良かれと思ってやったんだけど、相手にとっては迷惑だったりするし、その辺も難しいかな。

A：価値観の違いってことですかね。

齊：一般常識って言われるものも価値観の違いで変わってくる。言いたいけど言えない、伝えても伝わりづらいっていうところはやっぱりあるし、利用が少ない利用者さんの支援になったら、関係性を継続して作っていくっていうのもなかなか難しいね。

A：関係性作り... 難しいですね。他には何かありますか？

齊：利用者さんとの関わりではないんだけど、自分が人の上に立つとか、まとめるとかっていう、まだそれまでのレベルじゃなくて。それが大変というかきつかったりする時がある。一日一日をやっていってるって感じで。でも、周りが本当に協力してくれるから、すごく助かってる。

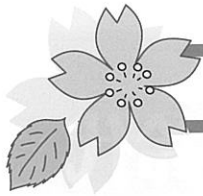
A：らすかるだと兼務の人も多かったりで、周りがフォロー、協力的でいてくれるっていうのは大きいですね。

齊：ですね。私はずっと人に恵まれてる気がする。だから、仕事が嫌っていうことがない。確かに仕事はきついけど、周りにすごく恵まれてるからなんとかやっていけます。

A：仕事を辞めたいって思ったことはないんですか？

齊：仕事自体は好き。だから... ないのかな。逃げ出したって思うことはあるけど、辞めたいって思うことではないかな。ただ、あんまり深く考えてないだけかも（笑）

A：それは少し羨ましいかもしれないです（笑）これからも大変だと思いますが、頑張ってください！今日はありがとうございました。



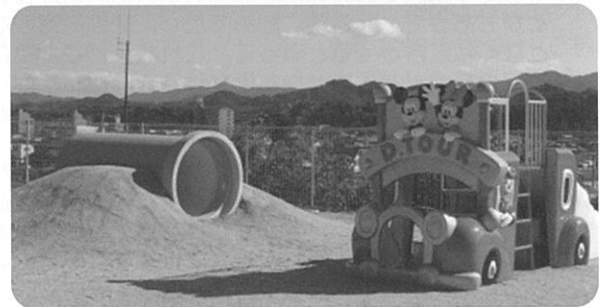
# 事業拡大(展開)

## こども発達支援センター 大分なごみ園

大分なごみ園は、平成29年度より本格的に児童発達支援センターに移行します。

児童発達支援センターでは、地域の中核的な療育施設としての役割を担い、今まで以上に地域の子育て家庭が安心して暮らせるよう、子ども一人ひとりの特性に応じた発達支援、合理的配慮に基づいた環境設定の推進などに努め、個々の発達段階に応じた関わりを配慮することで、対人関係を中心とした育ちを支援していきます。

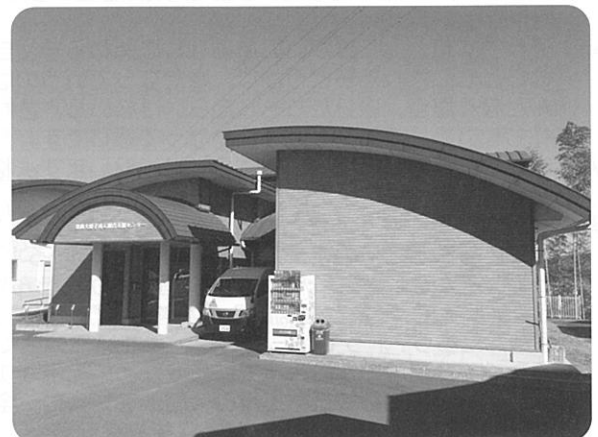
建物も増築し、児童発達支援（幼児）20名、放課後等デイサービス（学童）10名の定員になります。また、保育所等を訪問し、育ちの気になる子どもに対して、集団生活への適応のための専門的な支援を行い、保育所等で安定して生活ができるようサポートする保育所等訪問支援事業も充実していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 豊後大野子育て総合支援センター事務所



豊後大野市より、いぬかいこども園となかよしひろばの間に建つ旧犬飼町介護支援センターの譲渡を受けました。現在は、豊後大野子育て総合支援センター事務所として会議等に利用していますが、将来的には診療所として活用したいと考えています。本センターを利用されていた社会福祉協議会運営による「ヘルパーステーションいぬかい」は、いぬかいこども園なかよしホール内に事務所を移転していただいています。







## ライフサポートセンター なごみ園

なごみが開所して今年で15年が経ちました。開所時は3名の児童の利用からのスタートでしたが、おかげさまで現在では約70名の児童に登録していただいております。幼少期より通所していただいた方に高校卒業後も、同じスタッフが継続してサポートできる体制を作りたいと考え、平成29年度より生活介護事業を併設することを予定しています。また引き続き、放課後等デイサービス事業と保育所等訪問支援事業も行っていますので、どうぞよろしくお願い致します。



実習でピザ作りをしています。

## グループホームかわしま

平成22年1月に5名のメンバーでスタートしたグループホームかわしまも現在では9名となり、にぎやかな日々を過ごしています。

『家庭的な雰囲気の中、少人数でより手厚い支援の提供を』と進めてきましたが、今回、利用者やご家族のニーズにお応えする為建物の一部を増築・改修し、定員を増加しました。同法人内のめぶき園で生活訓練をうけた方が4月より移行される予定です。地域の方々に助けられながら、今後も楽しく穏やかな生活を送れるよう、頑張っていきます。



居室を増築・改修しました！

新しい浴室ができました！

新しい居室はフローリング！



広くなった食堂



# フィンランドにおける障害者の人権と

相談支援事業所プラス 支援係長 田島 良平

今回訪問したフィンランドは、2016年5月11日に障害者の権利に関する条約（以下、障害者権利条約）に批准している。日本より2年遅れて批准した理由には、重度障害者の意思決定支援について国内法整備の段階でまとまらずに遅れたという背景がある。また障害福祉サービス利用時には、日本のような障害者手帳制度はなく、行政職員のソーシャルワーカーが、医師の診断書と、本人のニーズを基にサービスの支給量を決めていく。重度障害者の判定基準は、おおまかだが自立した移動ができない場合は重度とみなされることが多く、日本の判定基準とは差がある。また、国土面積は日本とほぼ同じであるものの、人口は日本の約20分の1であり、日本で社会問題となっている高齢者の運転に関することや、強度行動障害児者支援に関すること、医療ケアを必要とする障害児者の在宅ケアに関してなどは日本ほど特別視されておらず、個別の支援と意思決定の重要性を前面に出していた。

今回の視察を通して一番の関心は「社会モデル」から「人権モデル」へと、次の段階に移行していることだった。この社会モデルは、「障害は障害者個人にある」のではなく、障害者が社会に適應できない環境と、障害がない人たちの否定的な態度の中に障害があるという考え方である。このモデルは「権利」をキーワードに、障害者の個人的対応の問題ではなく、社会的変化こそが求められると主張した。そして、社会モデルの国際社会での到達点は、障害者権利条約の採択とその理念の普及である。また、フィンランドにおいてのみでなく、国際的にも障害問題は人権問題として捉えられており、社会モデルが主張してきた社会的障壁の除去という観点は、障害者の人権保障という面からその必要性を明らかにしてきた。これら一連の流れをフィンランドでは「社会モデルから人権モデル(Rights-based model)へ」と表現している。私は、人権モデルの考え方を「障害者は、作られた社会を生きるのではなく、人として生きる力を示し、その経験や視点から社会を作っていく側にしなければならない」と捉えている。2001年、各国が障害者権利条約を作ろうと、「障害者の人としての権利と自由の享受(Human Rights and Fundamental Freedoms)」の実現を目指し始めた。それから15年が経過し、フィンランドでは、障害者の権利を、障害者の手で獲得できるように動き出している。障害福祉サービスの一

つにパーソナルアシスタントができ、障害者が主体的にサービスを活用できるようになった。それは人として生活する上での必要な権利の行使であり、私は同時に、対等な立場で障害者が生きていくことも求められていると思った。フィンランドトレッシュホールド協会(The Finnish Threshold Association)のスタッフであり、今回の研修の通訳者でもある勝井久代氏によると、「フィンランドでは、支援者に対して障害者の権利やサービス利用時の重要事項を伝えるだけではなく、障害者に対して人としての権利や、分け隔てなく生活していく自由を知ってもらうための取り組みを積極的に展開している」と話があった。マイノリティ(社会的少数派)である障害者は、これまで住む場所、移動手段、言語通訳、また優生思想によって命までも、健常者の作ってきた世界から疎外され、人としての権利が蔑ろにされてきた過去がある。今回の視察を通して、改めて障害者権利条約を理解するための努力をし、障害者と健常者が同じ人として生きていくための取り組み方を考えなければいけないと感じた。

今回の研修を終え、私が相談支援専門員として活動する上で考え続けている「人を支援する」ということ、つまり障害者に対して、どう向き合い、どう関わり、共に生きるとはどういうことなのか、ということへのヒントや考え方を多く得ることができた。

日本の場合は、権利を取得するために強く訴えを起こさなくても、自然とサービスを利用することができ、一定水準の社会生活を送ることができる。制度として障害福祉サービスが整っていることで、障害ありきの生活に慣れてしまっていないだろうか。私は、障害者が制度に従順になり過ぎず、一人の人間として生きることを忘れてはいけないことを学んだ。そのためには、障害者が主体的に意思決定することが必要である。「支援をされる障害者」として生活するのではなく、対等な立場で生活し「支援を依頼する障害者」となるために、障害者自身が権利を学び、獲得しなければいけない。

フィンランドで強く感じたことは、障害者自身ももっと人として共に生きたいという貪欲さや、社会の一員にならなければならないという探究心のようなものを持っており、そのために政治への参加や提言活動を積極的に行い、意識的に社会参加をしていたことである。今後へのヒントとして、家族が障害者の介護をするのではなく、支援者が義務的にサービス提供

# 意思決定支援を学んで

するのでもない。障害者自身が信頼できる身近な友人を支援者として雇用し、サービスを受けることができる。そういった支援体制の構築をフィンランドでは考えており、これはまさしく人と人との関わりではないかと思った。

一方で私たち支援者は、障害がある人を「障害者」として生み出すのではなく、障害を抱えた「人」を支援していることを忘れてはいけない。そのためにも、人権、障害について正しく知る、そしてその理

解を広く共有するために人材を育成しなければいけないと考えている。支援者の中には、日々の業務を流れ作業のようにこなしている人もいるのではないだろうか。人が「人を支援する」ことを、本当の意味で正しく理解することは容易ではないと今回のプログラムを通じて学ぶことができた。今までの障害者に対する歴史的差別が消えることはない。人としての権利を主張することの意味の大きさをこれからも学んでいきたい。



## 平成28年度大分県発達障がい者支援センター主催講演会

平成28年12月23日、ホルトホール大分において「支援者のスタンスについて考える」というテーマで、熊本県からスティーブ・クルーパ先生をお招きし、「自閉症スペクトラム支援における統合的アプローチ：TEACCH構造化のパラドックス」と題してご講演を頂きました。また、情報提供では厚生労働省の日誌正文発達障害対策専門官に最近の厚生労働省における発達障害施策について、熊本大学医学部附属病院神経精神科の田中恭子先生にイギリスにおける障害者への医療支援についてお話を頂きました。

シンポジウムでは、全日本自閉症支援者協会会長の松上利男先生の司会進行で、医療法人謙誠会博愛病院理事長の釘宮誠司先生、厚生労働省の日誌正文専門官、当法人理事長の五十嵐康郎が「全日本自閉症支援者協会が果たす役割」について議論いたしました。

今回の講演会は、大分県発達障がい研究会と合同で開催し、当日は大分県内および九州の発達障がい児・者の療育や支援に関わる方々や保護者など約300名にご参加いただきました。今後も充実した講演会を企画して参りたいと思います。





# 平成 28 年度 研修委員会 年間活動報告

※当法人では、ここに記載した研修委員会活動以外に事業所毎の研修も充実させています。

月	日 時	開催研修	内容・演題	講 師	会 場
4月	1日(金)	新人研修	理事長講話(自閉症療育におけるコベルニクスの転回) 課長講話(接遇マナーについて)	社会福祉法人萌葱の郷 理事長 五十嵐 康郎 障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい 施設長 近藤 暢秀	なごみ
	3日(日)	なごみ・大分なごみ園 ・なかよしひろば	「制度改正について」「9年目の振り返り」	こども発達支援センター 大分なごみ園 園長 福田 和彦	なかよしひろば
	20日(水)	研修委員会活動	第1回研修委員会 報告・検討会	こども発達・子育て支援センター なかよしひろば 支援係長 新宮 貴志	
5月	14日(土) 各日	伝達研修 中堅研修	「今年度の各事業所のビジョンについて」 「各事業所の今年度の具体的取り組みについて」	各事業所の課長又は管理者、及びそれに準ずる職員 各部署の係長	ますの井ホテル 各事業所
	3日(金) 8日(水)	一般研修 研修委員会活動	「発達障がい者の特性理解と支援について part1」 第2回研修委員会 報告・検討会	豊後大野子育て総合支援センター センター長 五十嵐 猛	なかよしホール
9月	8日(木)	なごみ・なかよし ひろば内部研修	「乳幼児期の心の育ちと関わり方」 「療育活動中の思考について」	こども発達・子育て支援センター なかよしひろば 臨床心理士 合田 紀子	なかよしひろば
	10日(土)	研修委員会活動	第3回研修委員会 報告・検討会	こども発達・才能支援センター なごみ 園長 秋月 正博	
10月	1日(土)・2日(日)	内定職員研修会①	「社会福祉法人萌葱の郷の事業内容について」	こども発達・才能支援センター なごみ 園長 秋月 正博	飯田保養所
	7日(金)	新人研修	「発達障がいについて」	大分県発達障がい者支援センター ECOAL 副センター長 田中 秀征	豊後大野子育て総合 支援センター事務所
11月	1日(火)	研修委員会活動	第4回研修委員会 報告・検討会		
12月	12日(月)	一般研修	「発達障がい者の特性理解と支援について part2」	豊後大野子育て総合支援センター センター長 五十嵐 猛	なかよしホール
1月	10日(火)	研修委員会活動	第5回研修委員会 報告・検討会		
	11日(水)	なごみ内部研修	「困りの大きな家庭を応援するために～地域 の資源の仕組みを知ろう」	こども発達・才能支援センター なごみ 園長 秋月 正博	なごみ
	26日(木)	イコール・大分なご み園合同研修会	事例検討会	こども発達支援センター大分なごみ園 園長 福田 和彦	大分なごみ園
2月	各日	中堅研修(一般職発表)	日々の療育での学びを発表	主任・一般職	各事業所
3月	4日(土)	内定職員研修会②	「先輩職員からの話」	障がい者支援施設 めぶき園 支援員 三宮 和恵 大分県発達障がい者支援センター ECOAL 支援員 小西 みのり	アクロスホール
	7日(火)	研修委員会活動	第6回研修委員会 報告・検討会		

**障害者支援施設 めぶき園(法人本部)**  
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10  
TEL097-578-0818  
FAX097-578-0819  
mebukien@moeginosato.net

**ホームヘルプサービスセンター らすかる**  
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10  
TEL097-578-1888  
FAX097-578-0819  
rasukaru@moeginosato.net

**相談支援事業所 プラス**  
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10  
TEL097-578-0818  
FAX097-578-0819

**いぬかいこども園**  
大分県豊後大野市犬飼町田原1419番地  
TEL097-578-0706  
FAX097-578-0710  
inukai-hoikuen@moeginosato.net

**いぬかいこども園 なかよしホール**  
大分県豊後大野市犬飼町田原 1421-40

**こども発達・子育て支援センター  
なかよしひろば**  
いぬかい子育て支援センターゆうゆうキッズ(なかよしひろば内)  
大分県豊後大野市犬飼町田原 1414 番地 1  
TEL097-586-8811  
FAX097-586-8818  
nakayoshi@moeginosato.net

**ライフサポートセンター なごみ園**  
大分県豊後大野市犬飼町大寒2149番地1  
TEL097-586-8070  
FAX097-586-8071  
nagomi@moeginosato.net

**大分県発達障がい者支援センター ECOAL**  
大分市中島西1丁目4番14号市民の権利ビル202  
TEL097-513-1880  
FAX097-513-1890  
ecoal@moeginosato.net

**障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい**  
大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8  
TEL097-578-0077  
FAX097-578-1226  
donko@moeginosato.net

**こども発達支援センター 大分なごみ園**  
大分県大分市丹生210-3  
TEL097-524-3636  
FAX097-524-3637  
oita.nagomien@gmail.com

**グループホーム かわしま**  
大分県豊後大野市犬飼町下津尾3709-8  
TEL097-578-0885



## 協力者御芳名

高橋歯科医院様・秦 正也様・伊美 信長様  
堀内 桂輔様・足立 健一様

## 編集 後記

昨年の秋に放送された「地味にスゴイ! 校閲ガール・河野悦子」のドラマをご存知でしょうか。石原さとみさん演じる河野悦子が、出版する書籍の誤字・脱字の訂正や事実確認、内容の誤りや不備な点を直し、訂正するという表舞台にはなかなか出ない地味な作業をするドラマでした。そのドラマを見て今回、萌葱の郷の校閲ガールになりました。ASSISTの創刊時から関わらせてもらい、「次はもっといいものを」をモットーに、より楽しめる広報誌を今後も目指していきたいと思っております。

